

**あきらめず、つながって！**

「森友学園」をめぐるニュースが連日伝えられています。国有地払い下げ問題、政治家や官僚等の関与の有無、建設費補助金不正疑惑、教育勅語を暗唱させる幼稚園に感激し新しい教育のモデルと称賛する政治など、この問題の本質の解明が急がれます。

安心・安全な社会の基盤は、平和と原発のない社会です。しかし、国は私たちの暮らしと命を破壊しかねない重要な法案審議を着々と進めています。

3月21日、治安維持法の現代版と言われ、過去3回廃案になった「共謀罪」法案が閣議決定されました。また、福島原発事故から6年を迎えた今も汚染水は漏れ続け、今もなお約9万人のひとたちが故郷を奪われ、避難生活を余儀なくされている中であって、原子力規制委員会は、1月18日に玄海原発3・4号機の再稼働にゴーサインを出しました。玄海原発の風下37km～60kmに位置する福岡市は、事故発生の場合、糸島市民9,500人の避難受け入れも想定しています。原発再稼働阻止はもちろんですが、具体的な地域防災計画とともに住民説明会を求めていかななくてはなりません。

福岡市議会議員 いけだ良子

2017年 第1回 定例会報告

2月20日～3月28日まで38日間の会期で、2017(H29)年第1回定例会が開会されました。しかし、新空港出資問題で、市長の「再議」が確定的となり、会期が4月12日まで延長になりました。前段の2月20日～23日までは、2016年度の補正予算について審議、24日に市長より2017(H29)年度予算案・条例案が上程され、会派での予算勉強会を経て、3月6日より市長の施政方針に係る代表質疑、補足質疑が行われました。その後、条例・予算特別委員会が全議員によって設置され、各分科会で来年度の具体的施策に関する審議が行われました。

市長提案「福岡空港未来基金」条例案を否決！

福岡空港の民間委託化(2019年度)に向け、市が保有する福岡空港ビルディングの株式売却に伴う歳入64億円の補正と、歳出予算の計上に関わり激論が交わされました。高島市長は、福岡空港の新運営会社への出資はせず、株式売却で得た約64億円を活用し、空港周辺の地域振興を図る約7億8,000万円の基金を設ける「福岡空港未来基金」条例案を提案しました。しかし、出資をすべきと主張する会派と意見が激突。福岡市民クラブは、空港の公共性・安全性の観点から市は出資すべきとして、条例案に反対をしました。**〈市長案〉**

株式の売却収入 約64億円	こども未来基金約30億円(保育所整備・子育て施策)
	スポーツ振興基金約20億円(2021年開催予定の世界水泳選手権大会やラグビーワールドカップの財源)
	学校施設の改善約6億円(トイレ改造、空調機更新など)
	福岡空港未来基金約7億8,000万円(空港周辺地域の振興)

議員提案「活力ある福岡空港づくり基金」条例可決
新運営会社への出資を前提とした条例案が、3月9日提案、福

岡市民クラブの修正を加え、28日に記名投票の結果、賛成多数(賛成39票、反対20票)で可決しました。本条例第4条には、市長に出資に向けた努力義務を課しています。市長は、議決に異議があるとして即日、審議のやり直しを求める「再議」を表明しました。再議が行われるのは61年ぶり、4月12日に採決が行われます。

**条例・予算特別委員会 第2分科会報告****●障がい者グループホーム(以下GH)の設置促進**

池田: GHの設置を促進していくとのことだが、補助金額が昨年度と比較して減額されている。これは設置が進まないということか。

答弁: 指摘の通り。GHの設置が進まない理由として、賃貸住宅を利用してのGHの設置について、不動産業者との協議が困難と事業者の声があったため、28年度から市のホームページ上に障がい者GH開設応援サイトを設け、マッチングを行っている。

池田: 市営住宅の空き室利用の取り組みで、住宅都市局との連携は進んでいるのか。

答弁: 住宅都市局としても支援住宅のGHとしての活用を積極的に進めたいとの意向だが、あくまで空き室を活用した設置であり、確保が困難と聞いている。

池田: 来年度の重点施策として「障がい者の『親なき後』も見据えた生活の安心」を掲げている。今の報酬では夜間の支援員の確保ができず重度障がい者の入居が進まない。福岡市単費で支援員

を加配するなどの措置が急務であることを指摘しておく。また、これまで以上に住宅都市局との連携を強化して市営住宅と障がい者GHの計画的整備を要望する。

●不登校対応教員が、全中学校配置に！

池田：全中学校への配置は大変評価するが、正規47人、非常勤20人となっている。不登校の人数が多い学校から正規教員を配置すると、小規模校は相対的に不登校生徒数が少なくなるため、非

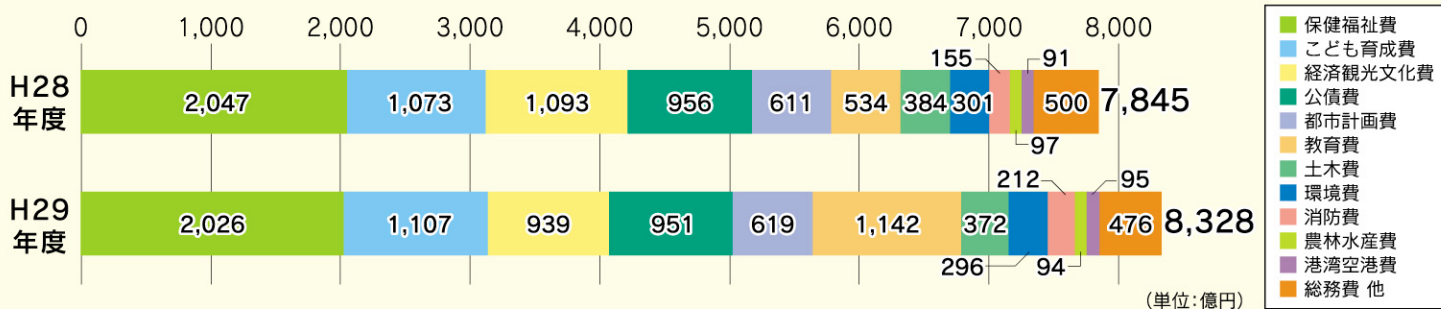
常勤の配置となるのではないかと。教科欠員の問題を抱えている小規模校への支援を検討すべきである。

答弁：各学校の状況を踏まえながら、できるだけ正規の教員を配置できるように定数計画を策定していく。また、小規模校の支援として加配計画も検討しており、教科欠の解消も含めた定数計画を策定していく。

《一般会計》

歳出

教職員の人件費が政令市負担となったことから教育費は大幅に増加。昨年度に引き続き医療・介護関連の繰入金・負担金が増加する中、高齢者福祉施策については一部見直しをはかりました。ニーズの高い子育て環境の充実に向けて、こども育成費の増額は確保しました。



2017年度「こんなこと」に取り組みます！

■待機児童の解消に向け、2,000人分の保育所整備

年度途中での職場復帰時の0歳～1歳児の受け入れ確保策を求めました。



■市立姪浜保育所が、姪浜幼稚園へ移転計画

市立幼稚園の存続を求めてきましたが、姪浜幼稚園が2017年度末(2018年3月末日)で閉園となります。その跡地へ姪浜保育所の移転が決まりました。西部療育センターと隣接していることから、この機を捉え、療育を必要とする子どもの保育も可能となるよう、検討を求めました。

■「運転免許返納割」サービス

高齢者の運転による交通事故が社会問題となる中、運転免許証を返納し、「ちかパス65」(65歳以上が対象で、1ヶ月6,000円で全線乗り放題の定期券)を購入した人へ、3,000ポイント(円)付与します。(返納後1年以内2回まで)

地下鉄利用のみでなく、適用範囲の拡大を求めています。

■特別支援教育支援員が185人へ！

要望する全ての学校への配置をめざして増員されました。2ヶ月交代の課題についても、1学期間の勤務が可能となりました。

■正規教職員が133人増員

県費負担教職員が市へ権限移譲したことに伴い、133人が増員。

学級数の増加70人を合わせると、計203人の教職員の増加となりました。これまで常勤・非常勤教員で対応していた2～4年生までの少人数学級がすべて正規教員となるほか、不登校対応教員、通級指導、学校事務職員、栄養教諭など、教育環境の充実に向けて、大きな前進です！

■国史跡吉武高木遺跡「やよいの風公園」オープン

「日本最古の王墓」や大型建物展望地、かめ棺ロードなど、わくわく感じっぱいの遺跡公園が、4月15日グランドオープンしました。



■精神障がい者への運賃割引制度導入

西鉄に加えて、市営渡船も運賃の割引制度が導入されます。

■福祉バスの運賃、利用者負担ほぼ0円に！

高齢者や障がい者の研修会やレクリエーション等の活動を促進。平均的な利用時間は、大型バスで、約11時間、走行距離約180km。

■ベンチプロジェクト～外出しやすいまちづくり



バス停付近で歩道上に設置できない場合や地域からの要望に対応し、市有地への設置促進。民有地内ではベンチ購入費1/2補助。(5万円上限)

いけだ良子後援会入会のご案内

いけだ良子後援会では、いけだ良子の活動を支えていただく後援会員を募集しています。皆様方のご協力をお願い申し上げます。

年会費(1口)1,000円(何口でも結構です)
(郵便局)口座記号番号 01700-8-134553

弁護士による 無料法律相談を 行っています

●日 時/毎月第4水曜日 17:00～19:00

●場 所/池田良子事務所

弁護士:津留雅昭 市議会議員:池田良子

※どなたでも、お気軽にご相談ください。秘密厳守。
事前にお電話でご予約ください。

いけだ良子事務所

〒819-0043

福岡市西区野方2丁目13-3

tel:092-812-3447 fax:092-812-3449

http://www.ikedayoshiko.com

nukumori_anshin06@yahoo.co.jp

